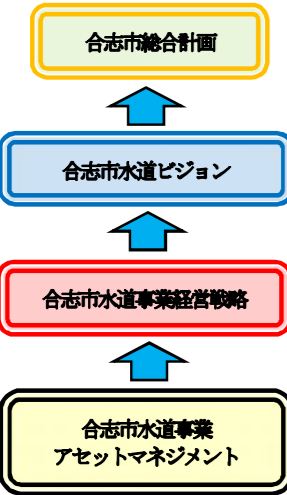


## 経営戦略の位置付け



本経営戦略は、本市の最上位計画である『合志市総合計画』と安全・強靱・持続についての施策を取りまとめた『合志市水道ビジョン Ver.2』を下支えする計画のひとつとなります。『合志市水道事業アセットマネジメント』を包括的に取りまとめ、施設の老朽化等に対応した具体的な取り組みを実施します。

計画期間は、令和2年度(2020年度)から令和13年度(2031年度)までの12年間です。

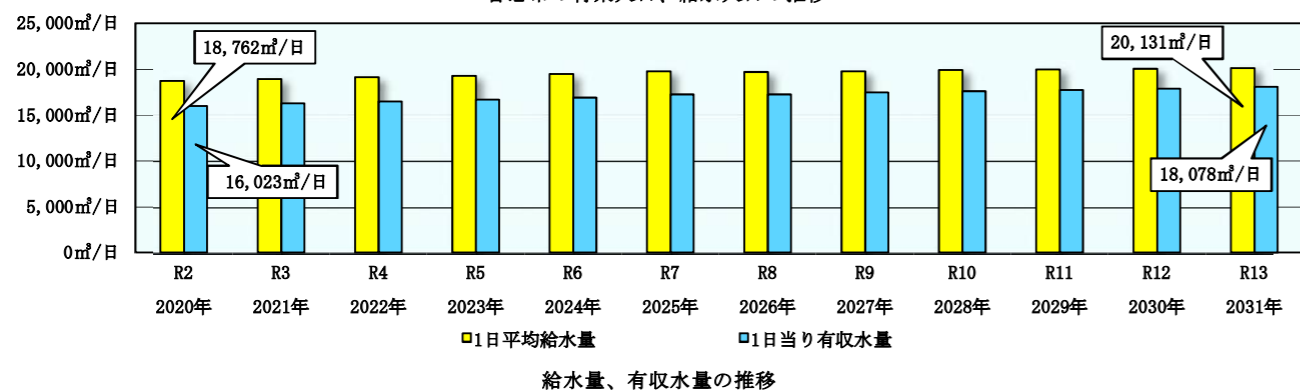
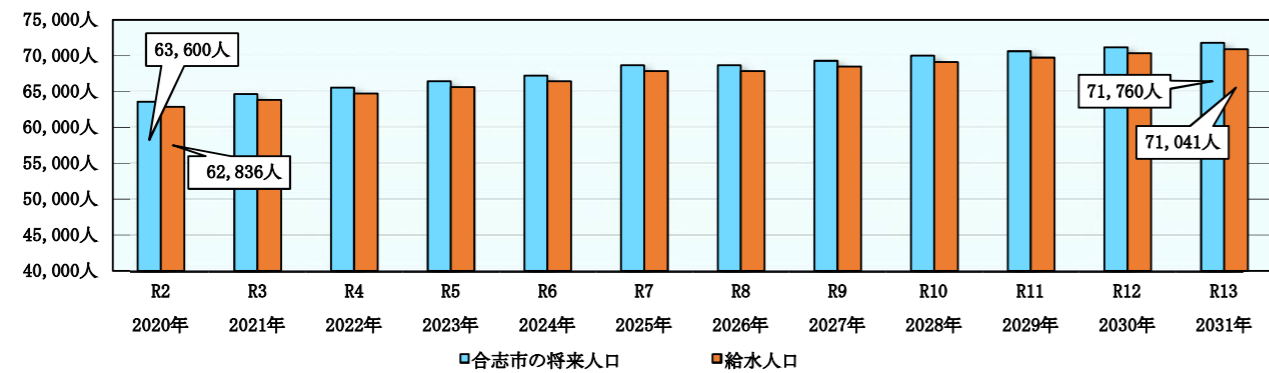
## 経営の基本理念と3つの基本方針

本経営戦略策定にあたり、本市の総合計画における「水の安定供給」を実現するための経営の基本理念と3つの基本方針を下記のとおりとします。

**【基本理念】**  
 経営環境の変化に適切に対応し、知恵と工夫により業務の改善を図り、市民に安全で快適な水道サービスを持続的・安定的に提供します。

- 【3つの基本方針】**
- (1) 健全経営の持続に努めます。
  - (2) 計画的な施設更新を行います。
  - (3) 危機管理体制の強化に努めます。

## 合志市の将来の人口及び給水量の見通し

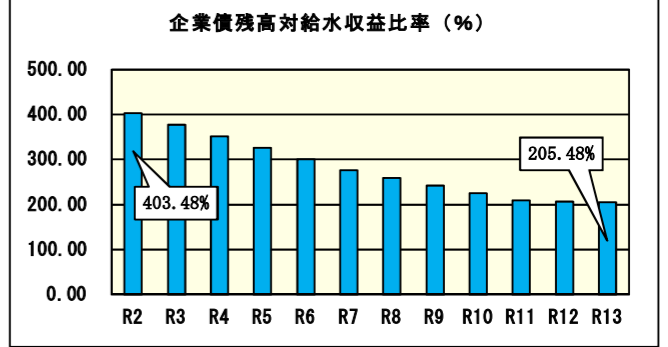
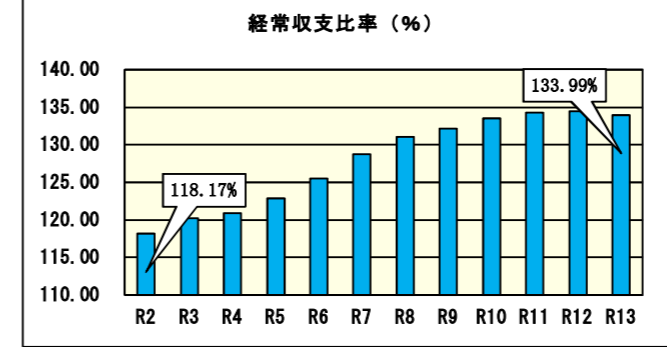
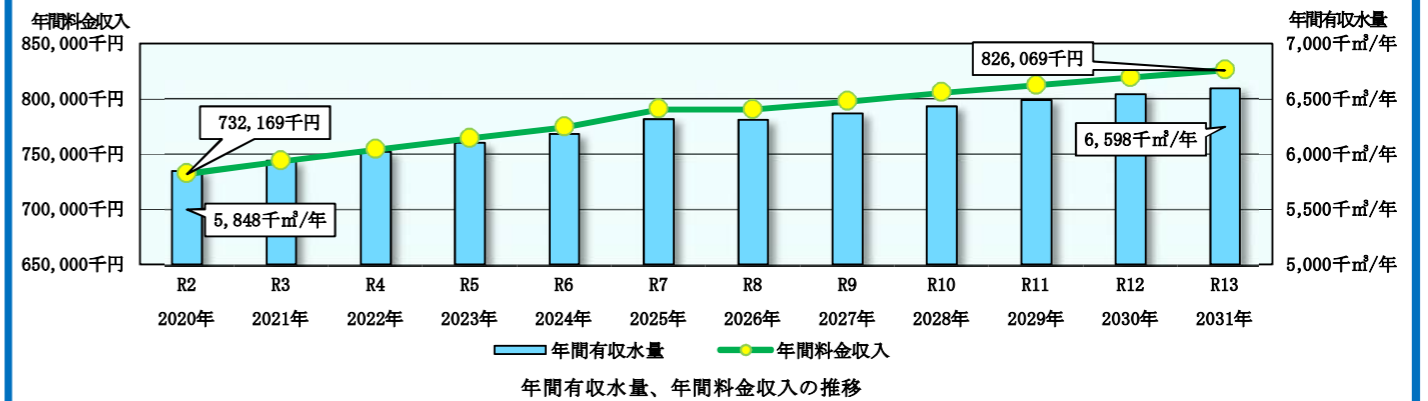


合志市の人口は、令和13年度末時点で約71,700人に達する見込みとなっており、その後も上昇傾向が予想されます。給水人口についても、将来の予測では今後12年間で約8,200人、年間約680人以上が増加する見込みとなっています。

給水人口の増加に伴い、令和2年度は1日平均給水量18,762m³/日で、12年後の令和13年度では、1日平均給水量は20,131m³/日程度まで増加する見込みです。同様に令和2年度の1日当り有収水量は16,023m³/日で、12年後の令和13年度には18,078m³/日に増加する見込みです。

有収水量の増加は、給水収益の増加につながり、水道事業の経営に良い影響を与えますが、給水量の増加を考慮した水道施設の整備や投資を行う必要があります。なお、毎年管路更新工事を行うことで、有収率の向上を図ります。

## 年間有収水量、年間料金収入の推移

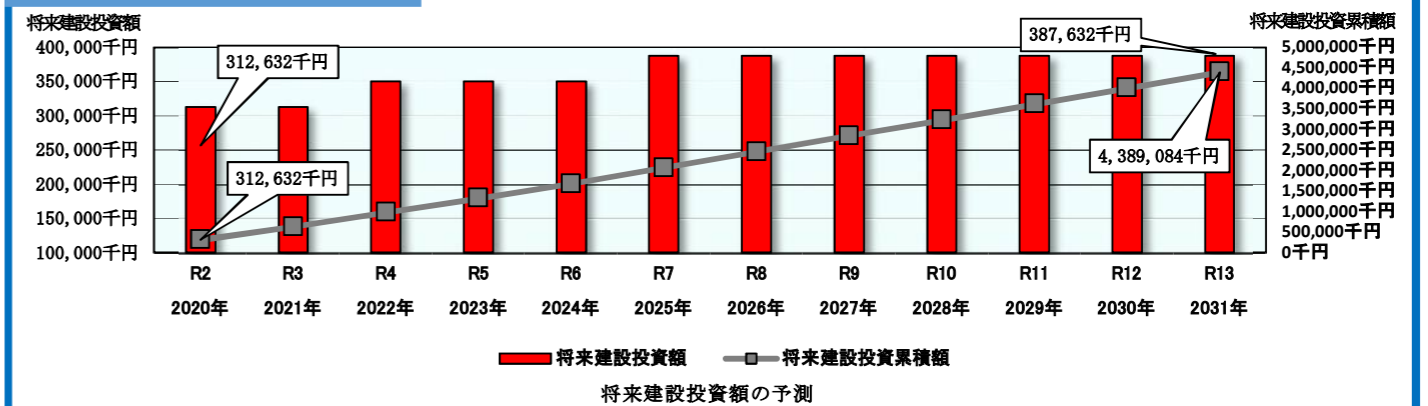


将来の人口増加に伴い、有収水量及び料金収入についても増加傾向が見込まれます。年間の有収水量の推移については、今後12年間で約750千m³増える見込みです。料金収入についても有収水量と同様に増加傾向が見込まれ、同期間で約93,900千円の増収が予想されます。

料金収入の増加に伴い経営の健全性を示す指標となる「経常収支比率」の将来推移では、料金収入の増加と事業費用抑制により、経常収支比率は向上し、健全な経営が見込まれますが、老朽化した施設や管路更新又は大地震等で施設が被災した場合の復旧費用を積み立てておく必要があります。

また「企業債残高対給水収益比率」については、計画期間内において企業債の借入は予定していませんが、今後の多額の資金を必要とする施設の更新に対して計画的に投資をしていくことで、企業債残高対給水収益比率は減少するため、健全な経営が見込まれます。

## 将来の必要となる建設投資額



将来の料金収入の増加が見込まれる一方で、既存施設の耐震化や改築・更新についての建設投資が必要となります。

これは今後、施設の老朽化が進むことが予想され、災害時においても耐える施設の構築を図ることで、施設の健全性及び耐震性が向上し、将来にわたって安全・安心な水を安定的に供給するために必要不可欠なことです。

今後、老朽化した管路等の更新費用だけでも12年間で約40億円程度の建設投資が必要と見込まれますが、大地震などで施設の損傷した場合の投資額は含まれていませんので、今後非常時のために基金を積み立てておくことで、合志市水道事業のなお一層の運営基盤強化が図られることとなります。